



【JA 上伊那様（長野県）】

りんごの着色促進及び葉摘みの省力化として、
極早生から晩生種まで推奨。指導に移してから
4年目を迎え、以前の使用剤よりも着色が良好に感じる。1回よりも2回
と使用回数の多い方が効果が高いとして生産者からも高評価を得ている。

産地の声



【JA 西都様（宮崎県）】

ピーマンに使用していますが葉立・色艶が良く着果も多くなります。促成・
雨除け・夏秋まで使用推奨。特に、促成栽培では、栽培期間が10ヶ月と
長期で最初の1ヶ月で作柄が決まるといわれています。その為、定植後の
活着促進として、プロリンの灌水をお勧めです。

対象作物：いちご（紅ほっぺ）
実施場所：長野県小布施町 O 氏
処理：平成 25 年 8 月のお盆のころから、DiNA プロリン 1 号
2000 倍液を 15 日おきに葉面散布。
収穫日：平成 25 年 11 月 28 日（収穫日が 2 週間
早まった。）



使用事例

対象作物：りんご（シナノスイート）
実施場所：長野県松本市 K 氏
処理：平成 28 年 8 月 31 日と 9 月 10 日の 2 回、
DiNA プロリン 1 号 1000 倍液散布。
調査日：平成 28 年 9 月 23 日（花そう葉が立ち、
葉摘みの省力化になった。近隣園戸比較しても
着色が良い）



対象作物：ぶどう（ロザリオビアンコ）
実施場所：山梨県南アルプス市 O 氏
処理：平成 25 年 8 月 3 日 DiNA プロリン 1 号
1000 倍液 1 回散布。
収穫日：平成 25 年 9 月 7 日



対象作物：カンキツ（不知火）
実施場所：熊本県宇土市 F 氏
処理：平成 25 年 9 月から 11 月の期間に、DiNA
プロリン 1 号 2000 倍液を 4 回葉面散布。
調査日：平成 25 年 12 月 11 日（3L、4L 玉中心になった。）



あなたの栽培技術にこれまで経験したこともない
変革をもたらします！

核酸・アミノ酸（プロリン・メチオニン）及び
ケルパック 66（海藻エキス）が主成分の

ディーエヌエイ DiNA プロリン 1 号・2 号・3 号



ロイヤル インダストRIES株式会社
〒201-0003 東京都狛江市和泉本町1-15-19
TEL 03(3489)1408 FAX 03(3489)9308

特長

- 原料の1つである魚類エキスには核酸の他に多種類のアミノ酸が含まれており、作物の旺盛な生育、品質向上に寄与します。
- アミノ酸のプロリン、メチオニンには花芽の充実、着蕾数の増加作用、着果率を高める働きがあると言われています。
また、栄養生長から生殖生長への転換を助け、着色・減酸を早め、旨味を引き出す効果も期待できます。
- 海藻エキスのケルパック 66 には生育を旺盛・健全にし、増根作用と光合成能を高める働きがあります。これは海藻由来の生理活性物質の働きによるものですが、ひとたび核酸・プロリン・メチオニンと作用し合うと更なる相乗効果が期待できます。

肥料成分量 (%)

名称及び肥料登録番号	チッソ	リン酸	カリ	摘要
1号(一般作物用) (生第100559号)	3.0	5.5	1.5	核酸、プロリン、メチオニン、ケルパック66の全主要成分を含む
2号(温州みかん専用) (生第93773号)	6.0	5.5	1.5	全主要成分からケルパック66を減量させた製品
3号(一般作物用) (生第93774号)	5.5	4.5	1.0	全主要成分からメチオニンを除いた製品

使用方法

生育初期はケルパック 66 を使用し、期の途中から着色向上、糖度アップ、果実肥大等を狙って DiNA プロリン処理に切り換えることをお勧めします。

対象作物	使用目的	使用時期	使用製品と使用倍率・使用回数
りんご	生理落果防止 幼果の肥大促進	落花直後	ケルパック 66 2000 倍液を散布する。
	新梢伸長を 30cm 位で止め、葉を小振りにし、受光態勢をよくするため	開花 1 ヶ月後	ケルパック 66 1000 倍 + 色一番 E 1000 倍混合液を散布する。
	果実肥大促進、旨味・甘味・コク味強化、着色増進、葉摘み作業省力化で着色増進	6 月以降～収穫 1 ヶ月前まで	DiNA プロリン 1 号 1000～2000 倍液を月 1 回散布する。
	緊急着色のため	直ちに	これまで DiNA プロリン 1 号を処理していない園で着色が遅れている場合は、直ちに DiNA プロリン 1 号 1000 倍 + 色一番 E 1000 倍混合液を 1 回散布します。 (鮮明な赤色になるため商品価値が高く、果実の硬度は高く軟化しにくいと評判です。)
ぶどう	新梢の徒長防止、花振い防止	新葉 7～8 枚時とその 1 週後	ケルパック 66 1000 倍 + 色一番 E 1000 倍混合液を新葉 7～8 枚時とその 1 週後に、それぞれ散布する。
	着色向上、糖度アップ、果実肥大	落花直後～収穫 1.5 ヶ月前まで	ケルパック 66 2000 倍 + DiNA プロリン 1 号 2000 倍混合液を月に 1 回散布する。
		収穫の 1.5 ヶ月前	DiNA プロリン 1 号 1000 倍液 1 回散布する。(本散布で果実の大きさが 2 倍近くに肥大する品種もあります。)
梨	展葉促進、初期肥大促進	満開後～6 月上旬	ケルパック 66 2000～3000 倍液を 10～14 日間隔で 2～3 回散布する。
	果実肥大、熟期促進	6 月中旬～収穫 1 ヶ月前	DiNA プロリン 1 号 2000 倍液を 10～14 日間隔で 3～4 回散布する。
桃	果実肥大、着色向上、糖度アップ	落花後～収穫 1 ヶ月前まで	ケルパック 66 2000 倍 + DiNA プロリン 1 号 2000 倍混合液を 3～4 週おきに 3～5 回散布する。
サクランボ	果実肥大、着色向上、糖度アップ、収量アップ	落花後～収穫 1 ヶ月前まで	ケルパック 66 2000 倍 + DiNA プロリン 1 号 2000 倍混合液を 2～3 週おきに 3～4 回散布する。

対象作物	使用目的	使用時期	使用倍率と使用回数
柿	花芽充実 生理落果防止	5 月上旬と 7 月中旬	ケルパック 66 1000 倍 + DiNA プロリン 1 号 2000 倍液各 1 回ずつを散布する。
	果実肥大 着色向上	8 月下旬～9 月上旬	ケルパック 66 2000 倍 + DiNA プロリン 1 号 2000 倍液を 1 回散布する。
ブルーベリー	初期生育促進、果実肥大	満開直後	DiNA プロリン 1 号 2000 倍液を 1 回散布する。
		満開後から	ケルパック 66 3000 倍液を 7～10 日おきに 2～3 回散布する。
	熟期促進	果実が色付き始めてから	DiNA プロリン 1 号 2000 倍液を 7～10 日おきに収穫まで散布する。
中晩柑類	隔年結果防止、大玉果実の生産、糖度アップ	12 月～5 月	DiNA プロリン 3 号 2000 倍液を月 1 回散布する。
		6 月～10 月	DiNA プロリン 1 号 2000 倍液を月 1 回散布する。
温州ミカン	耐寒性の向上、落葉防止、花芽の充実	収穫後～5 月	DiNA プロリン 3 号 1000～2000 倍液を月 1 回散布する。
	肥大促進 熟期促進	6 月～7 月	DiNA プロリン 1 号 2000 倍液を月 1 回散布する。
	着色向上	早生のホタル尻期	DiNA プロリン 2 号 3000 倍液を 1 回散布する。 リン酸が入っているので夏場の極早生のホタル尻時期の散布は避けること。(果皮のヤケ症回避のため)
その他果樹	果実肥大、着色促進	収穫の 2 ヶ月前から	DiNA プロリン 1 号 2000 倍液を 3～4 週あけて 2 回散布する。
果菜類 (トマト、きゅうり、ピーマン等)、花卉類	着蕾数の増加、花芽の充実、生理落果防止、旨味・甘味・コク味強化	着蕾 1～2 週前から	果菜類には着蕾 1～2 週前にケルパック 66 2000 倍 + DiNA プロリン 1 号 2000 倍混合液を 1 回、その後も 1 ヶ月おきに継続散布する。 花卉には同混合液を 1 ヶ月おきに 2～3 回散布する。
いちご	着蕾数增加、花芽の充実 果実肥大	8 月中旬より収穫終了まで	ケルパック 66 2000 倍 + DiNA プロリン 1 号 2000 倍混合液を 2～4 週おきに散布する。
豆類	着莢数增加、肥大向上	横枝の出始め時と開花始め	DiNA プロリン 1 号 1000 倍液を各 1 回ずつ散布する。

※上記は標準的な施用方法です。作物の生育状況に応じて適宜加減をしてください。

包装規格

1 号 : 1 ℥ × 15 本 / ケース、5 ℥ エ-ステナー × 4 本 / ケース、20 ℥ エ-ステナー入り。
2 号、3 号 : 1 ℥ × 15 本 / ケース、5 ℥ エ-ステナー × 4 本 / ケース。

注意事項

- メチオニンが沈殿しておりますので、沈殿物が無くなるまでよく振ってからご使用下さい。(逆さにして振ると、沈殿物がなじみやすいです。沈殿物が拡散しても透明にはなりませんが、希釈するときれいに溶けますので、ご安心下さい。)
- 本製品には濃縮 100% 魚類エキスが含まれているため、冬場など気温の低い時に固まり、容器から取り出し難くなることがあります。そのような場合は、容器をお湯につけて溶かしてからご使用下さい。(エーステナーの場合は、段ボール箱からプラスティック容器を取り出しお湯につけてください。)
- 肥料・農薬との混合可否 : ほとんどの肥料・農薬と混合可です。
ただし、肥料や農薬自体が薬害がでやすいものは、混用を控えてください。
- DiNA プロリン 1 号はボルドー液との混用散布は、薬害がでる恐れがあるので避けてください。ボルドー散布園に散布する場合は、薬害回避のため、必ず炭酸カルシウム(石灰)を希釈液 100L につき一握り～二握り(50～100g) 加用してください。
- 石灰硫黄合剤との混用は有害ガスが発生する可能性があるため避けてください。
- この肥料には動物由来たんぱく質が入っていますから、家畜等の口に入らないところで保管・使用してください。